

■ 場所 大阪化学繊維会館

しばらくの間、スクールのレポートを掲載できませんでしたが、ここでまとめて報告・紹介することにいたします。Vol. 2 4号ではスクール4. まででしたので、今回はスクール5～9の5回分を報告します。前のレポートと併せてご覧になっていただくと、全容が解りやすいと思います。

スクール5と6は、4を含めた3回セットで“「今」を支える最新のテキスタイルを学ぶ”というグループをなしていました。私たちのクリエーションを一層クリエイティブにしていくためには、その表現材料・手法である素材や織・編の技術、加工をもっと良く学ぼうというものです。

■ スクール5(10月5日)は、「デザインと織・編/テキスタイルデザイナー必須の最新の織・編を学ぶ」で、ファッション、インテリア、寝装の各分野別に最新の素材・ファブリケーションの動向について、多くのスライドやサンプルを使って紹介されました。大変参考になったのは、営業部隊とのせめぎあいや試作段階での試行錯誤や失敗例などをおりませながら、納得のいくモノ作りに至るまでの苦労話を伺えたことです。

「第一講座はファッション分野で、一般的なトレンド情報だけでなく自分の足で集める情報の大切さと、それを納得のいくテキスタイルとして具体化する苦労を多くのサンプル使って紹介いただきました。

「第二講座はインテリア分野で、レースカーテンのデザイン開発を例に取り上げ、素材や糸、レース編の技法などを駆使して作り上げられるデザインを具体的に紹介いただき、幅広い知識と経験の重要性を語っていただきました。

「第三講座は寝装分野で、生活必需品としながらも「ふとん」というアイテムの中で如何に魅力ある商品として、かつ眠りを楽しくするものとして作り上げるかを素材の観点から解きほぐすものでした。

■ スクール6(11月2日)は、「デザインと加工/付加価値を生む最新の染色・加工を学ぶ」で、現代の素材表現に欠かすことの出来ない染色加工の実例を数多くのサンプルを見ながら学ぶことができました。

「第一講座では、自動車の内装材動向から「素材感を作り出す」「機能を付加する」「意匠効果を生み出す」の3つの観点から表現としての加工を歴史的流れを織り交ぜながら学び、今後の展開としてのグローバル対応、オリジナリティ、環境対応といった課題への提言をいただきました。

「第二講座は染色加工業の立場から、仕上げ加工の多種多様性を紹介いただくと同時に、トレンドに見る後加工の方向性を「視覚」「レトロ」「自然」「健康」の4つのキーワードで整理した、さまざまなテクニック・技術をサンプルを見ながら勉強しました。

「第三講座は、プリントデザインが型設定と型送りの組み立て方によってヴァリエーションを生み出す魅力を紹介しながら、プリントの加工テクニックを楽しく語り、デザイナーの加工現場に対する理解の重要性を示唆していただきました。

次のステップは「色」です。知っているつもりで普段から駆使(?)している「色彩」をもう一度洗いなおしてみようという講座です。

■ スクール7(12月14日)は、『「今」を表現する色/広がるカラーワールド』と称して色彩知識の強化・カラープランニングのポイントなど色彩の学び直しを通して、色彩の武器化に挑んでいこうとするものです。

「第一講座は、一般的な色彩学を基本に捉えながらも、書籍を通してではつかみ難い科学的理解と芸術的理解をわかり易く解説。自分流の色彩学の構築に向けて理解を深めることができました。

「第二講座では、実務的な観点から糸・組織による色彩の見え方の違いや加工による色彩表現、カラートレンド発信の世界的仕組み、マーケットでのカラー動向などを解説。色彩を商品イメージのキーとして活用する重要性を理解しました。

次に学ぶべきは商品化計画(マーチャンダイジング/MD)です。デザイン、企画が良くてもマーケットに受け入れられなければ価値がありませんし、見込み違いの在庫を作ってしまうは事業が継続しません。

■ スクール8(1月25日)は、『「今」を作り出す/テキスタイルデザインのマーチャンダイジングを学ぶ』というテーマで、テキスタイルデザイナーが知らなければならない商品価値を生み出すMDを各ジャンルの実例を通して理解しようとするものです。「第一講座ではアパレルSPAの必然性や仕組み、形態を解きほぐしながら各企業がしのぎを削るコンセプトとブランドイメージ戦略を具体的な資料を使って解説。こんなまで見せてもらっていいのかなあ!という資料までオープンにもらいました。



スクール-6. プリントの型配置テクニックをサンプルで確認



スクール-6. 多くのサンプルを見せていただきました